

気胸患者さんにおける胸に管を入れる治療(胸腔ドレナージ)の必要性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部・前橋赤十字病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025 年 8 月 9 日 ～ 2025 年 12 月 31 日

〔研究課題〕 気胸患者における胸腔ドレナージの適応に関する全国データベース研究

〔研究目的〕 気胸(肺に穴が開いて空気がもれる病気)になった患者さんの治療で、胸に管を入れる処置が本当に必要かどうかを調べることです。どのような患者さんに管を入れる治療が必要で、どのような患者さんなら管を入れなくても安全に治療できるかを明らかにします。

〔研究意義〕 現在、気胸の治療では多くの場合に胸に管を入れる処置が行われていますが、この処置は患者さんにとって負担となることがあります。この研究により、本当に必要な患者さんを正確に見分けることができれば、不要な処置を避けて入院期間を短くし、患者さんの負担を減らすことができます。また、限られた医療資源をより効果的に使うことにもつながります。

〔対象・研究方法〕 前橋赤十字病院を研究代表機関として以前に実施された研究「本邦における気胸治療の実態調査：多施設共同後方視的研究」(研究代表者・呼吸器外科 井貝 仁部長) において収集された、2019 年 4 月から 2020 年 3 月までに日本全国の病院で気胸の治療を受けた患者さん約 2,000 名のデータを使用します。胸に管を入れる治療を受けた患者さんと受けなかった患者さんの治療結果を比較します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部・前橋赤十字病院

〔個人情報の取り扱い〕 この研究では、患者さんのお名前や住所などの個人を特定できる情報が分からないようにされたデータのみを使用するため、患者さんのプライバシーは完全に保護されます。研究結果が公表される際にも、個人が特定されることは絶対にありません。また、この研究に参加することによる患者さんへの新たな負担や危険は全くありません

研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 山内良兼 職名 准教授
研究分担者：氏名 坂尾幸則 職名 教授
所属：医学部外科学講座
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03 3964 1211(代表)